



—東地中海地域ニュース—

パレスチナ：ファイヤード PA 新内閣の発足 (5月20日付アル・クドウス紙他)

20日付アル・クドウス紙の新ファイヤード内閣組閣に関して報じている。取りまとめ要旨は以下の通り。

パレスチナのアッバス PA 議長は、19日、ファイヤード氏を首班とする新内閣の発足を発表。同日、内閣の宣誓式が行われた。

1. 新内閣を巡る動きのポイント

- (1) 全閣僚 25名のうち、21名のみ宣誓式に出席
- (2) ファタハ PLC 会派は、内閣に対するボイコットと不参加を表明
- (3) ファタハ等の諸派からの入閣者を巡り、アッバス議長とファイヤード首相の間で1週間以上意見の相違が続いた。
- (4) 教職員組合、公務員組合等が新内閣組閣に反対の意を表明

2. ファイヤード首相の宣誓式後の発言

- (1) 西岸とガザの再統合は、我々の最優先事項であり、新内閣は暫定的なものであり、分裂が終わり、和解が実現すればこの内閣はその任務を終了する。
- (2) ガザ復興も、最優先事項の一つであり、シャルム・エル・シャイク会議で承認された支援が届くように努力をしていく。
- (3) (ファタハ PLC 議員内閣が辞退した事について) アブドルラヒーム大統領府官房長官に一任している。

3. ファタハ系 2 閣僚候補の辞退

- (1) 閣僚に任命されていたファタハ系 PLC 議員 2 名 (拘禁者問題庁長官候補のイーサ・カラーク議員及び女性問題庁長官候補のラビーハ・ディヤーブ議員) が辞退した他、何名かの閣僚が、「やむを得ない」理由により宣誓式に出席しなかった。新内閣は、ファイヤード首相をはじめ 25 名の閣僚を含むが、21 名しか宣誓式に出席しなかった。(ファタハ系 8 名、女性 4 名を含む)
- (2) ファタハ PLC 会派は、内閣に対するボイコットを表明し、PLC ファタハ会派メンバー (PLC 議員) の不参加を決定するとともに、PLC 議員でないファタハ関係者の入閣については、個人の裁量に委ねるとの決定を下した。アフマド会派長は、ファタハ会派との協議なしの組閣は、陰謀でありコメディであると述べた。

(3) ガザ地区の（ハマス系）内務治安局は、アブ・サフィーヤ環境庁長官とダーウール青年・スポーツ庁長官のガザ出域を禁じた。アブ・サフィーヤ長官は、エレズ通行所手前に設置されたハマス・チェックポイントで ID カード及び旅券を没収され、ラマラ行きを阻止されたと述べた。（ロンドン発行ハヤート紙電子版）

4. 閣僚の顔ぶれに関する評価等

(1) ファタハは、ヤヒヤ前内務庁長官を罷免し、アブ・アリ・ラマラ県知事を後任とすることにより、重要ポストの一つを手に入れた。他方、アッバス議長がマーリキー外務庁長官の留任に固執したため、ファタハはマーリキー長官の罷免には失敗した。

（シャルクル・アウサト紙）

(2) ファイヤード首相は、ファタハをはじめとしたパレスチナ諸派からテクノクラート系の人物を登用する事により、内閣の強化を望んでいたが、アッバス議長或いはファタハ系の要路から候補者を反対されるなどして、困難に直面していた。アッバス議長とファイヤード首相のいくつかの閣僚を巡る意見の相違は、1 週間以上続いていた。特に外務庁長官に関しては、ファイヤード首相はファタハ関係者を欲していたが、アッバス議長はマーリキーの留任に固執していた。（ハヤート紙）

5. ハマスの反応

ハマス報道官は（ファイヤード）新内閣は基本法に反し、ハマスは決してそれを認めないし付き合っていくこともないと述べた。また別のハマス筋は、今回のアッバス議長の拳は、国民対話の死亡通知に等しいと述べた。

6. その他

教職員組合、公務員組合及び医療関係者組合の 3 組合は、ファイヤード首班の新内閣組閣に反対の意を表明し、ボイコットと非協力の可能性をほのめかした。3 組合の代表者達は、組閣に方法に不満であり、また、新内閣の閣僚にはパレスチナの大義（national program）にコミットしておらず、正直でない人物が含まれているとの声明を発表した。